研究期間
R4～R8

生物多様性の保全から活用へ

～生物多様性の主流化に向けた基盤情報の整備と情報発信～

長野県環境保全研究所 自然環境部

さまざまな社会経済活動の中に生物多様性の保全と持続可能な利用を組み込む「生物多様性の主流化」を目指すために、情報の整備や発信、活用事例づくりを行います。

なぜ研究が必要なの？

＜現状と課題＞長野県では2014年に「生物多様性ながの県戦略」を策定し、「人と自然が共生する信州」の実現に向けてさまざまな施策を展開してきました。しかし、生態系問題の単独での解決には限界があり、多くの分野での保全策の実行と連携が不可欠であると指摘されるようになってきました。

＜目的＞本研究では、従来からの自然保護分野に加え、地域づくりや教育、文化などさまざまな分野との連携による社会課題の解決を目指し、長野県の地域特性に即した生物多様性情報を整備し発信していきます。

どうやって研究するの？

①野外調査

動植物の分布をはじめ、自然環境の現状を調査し、地域の特性や保全上の課題を把握



②ヒアリングやアンケート

地域の生態系に支えられた多様な生業や文化、地域の生物多様性を保全するための活動や課題などを調査



③保全策や活用策の検討

調査結果などをもとに、行政や地元関係者と保全策や持続可能な地域づくりに向けた活用策などを検討



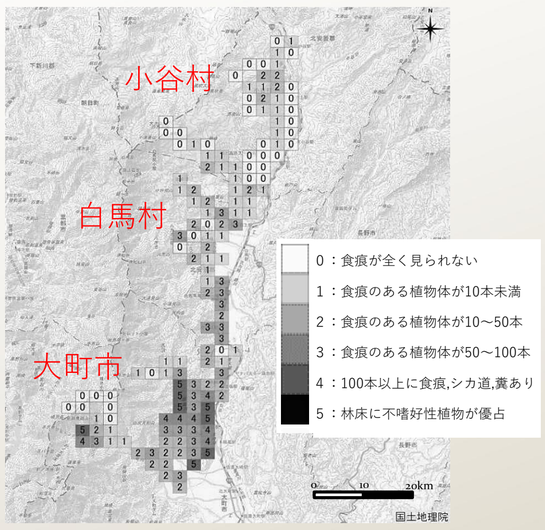
地元関係者との会合

④情報発信

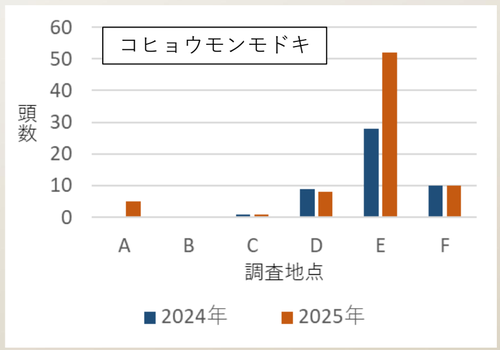
地域固有の生物多様性の価値や危機の現状をウェブサイトや冊子、講座などさまざまな機会を通じて発信し、各分野での生物多様性情報の活用に貢献

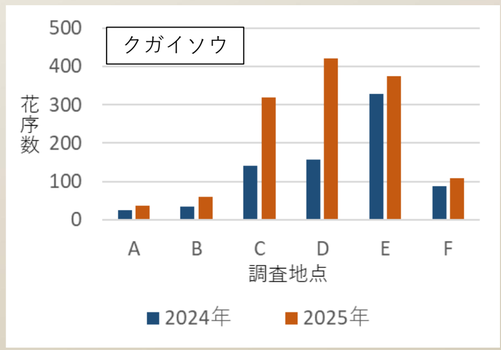
どんなことがわかったの？

北アルプスの麓でニホンジカが北部地域や標高の高いところへ分布を広げつつあることが調査結果からわかりました。



希少な動植物が生息する開田高原の草地で、絶滅が危惧されるチョウのコヒョウモンモドキと食草クガイソウの生息状況を地元の方や外部ボランティアの方々と調査しました。優先的に保全・再生すべき場所を明らかにするとともに、市民が継続できる調査手法を検討しました。





生物多様性の県内の現状と課題をわかりやすくまとめたパンフレットを作成しました。

